

四字熟語

四つの漢字で広がる世界

漢字四字で表される熟語・慣用句・ことわざ・故事成語を、総称して四字熟語といいます。これらは多くの場合、二字熟語が二つ合わさって四字熟語になります。

例

一進一退(「少し進む」の意味の「一進」と、「少し退く」という意味の「一退」という反対の意味の二字熟語の組み合わせ)……「進んだり退いたりすること」の意味。

また、似た意味の二字熟語を組み合わせて作ることもできます。「清廉潔白」「粉骨碎身」などが、その例です。

四字熟語の構成法は、二字熟語の構成法と似ています。

例えば、「主語―述語」の関係の「気分爽快」「時期尚早」や、修飾関係にある「循環経路」「飢餓状態」「低温殺菌」、そして「対象語―述語」の関係の「駐車禁止」「名誉毀損」など、さまざまに四字熟語があります。

目標と
振り返り

四字熟語についての理解を深める。

また、関連する一字の漢字を四つ並べて作ることもあります。

例

東西南北(方向を表す漢字)……「全ての方角」の意味。
喜怒哀楽(人間の感情を表す漢字)……「人間の表す自然な感情」の意味。

四字熟語の中には、漢字の意味だけでは内容を理解しにくいものもあります。それは、それらが昔からの言い伝えをもとにしてできた故事成語の仲間だからです。

例

四面楚歌……「孤立して苦境に立たされること」の意味。
呉越同舟……「仲の悪い者どうしが行動をとることにすること」の意味。

練習

1 次の□の中にも漢数字を入れて、四字熟語を完成させよう。

- | | | | |
|-----|------|------|-----------------------------|
| (1) | □喜□憂 | (2) | □刻□金 |
| (3) | □寒□温 | (4) | □苦□苦 |
| (5) | □発□中 | (6) | □載□遇 |
| (7) | □変□化 | (8) | □網打尽 |
| (9) | □中□□ | (10) | □里霧中
<small>むちゆう</small> |

2 次の□に共通する漢字をあとから選び、四字熟語を

完成させ、意味を確かめよう。

例 □即□離 ↓ 不即不離

意味 つかず離れずにいること。

- | | | | | | |
|-----|-------|-----|---------------------------|-----|------|
| (1) | □信□疑 | (2) | □業□得
<small>ごう</small> | (3) | □立□步 |
| (4) | □以□伝□ | (5) | □長□短 | (6) | □三□四 |

不 一 自 心 再 半 独

3 次の上下の熟語を組み合わせて、四字の熟語を作ろ

う。

- | | | | |
|---------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| ○寡占
<small>かせん</small> | ○温室 | ○交渉
<small>こうしやう</small> | ○清涼
<small>せいりやう</small> |
| ○和洋 | ○交渉
<small>こうしやう</small> | ○折衷
<small>せつちゆう</small> | ○成立 |
| ・市場 | ・飲料 | ・栽培
<small>さいばい</small> | ・成立 |

この教材で学ぶ漢字

- | | | | | | |
|--|-----------------------------------|-------------------------------|---|--|------------------------------|
| 飢
<small>キ</small>
うえる
飢え | 循
<small>ジュン</small>
循環 | 尚
<small>シヨウ</small>
高尚 | 爽
<small>ソウ</small>
爽快
さわやか
爽やかな朝 | 碎
<small>サイ</small>
粉碎
くだく
氷が碎ける | 廉
<small>レン</small>
廉価 |
| 寡
<small>カ</small>
多寡 | 霧
<small>ム</small>
霧雨
濃霧 | 毀
<small>キ</small>
毀誉 | 駐
<small>チュウ</small>
駐在 | 菌
<small>キン</small>
細菌 | 餓
<small>ガ</small>
飢餓 |
| 涼
<small>リョウ</small>
涼しい
涼しい風
すずしい | 培
<small>バイ</small>
栽培 | 衷
<small>チュウ</small>
衷心 | 涉
<small>シヨウ</small>
干涉 | 占
<small>セン</small>
独占
しめる
多数を占める
うらなう
花占い | |

広がる本の世界 6

学びを深める読書案内



異邦人
カミュ

常識から外れた人物が主人公。不条理に向き合う作者の代表作。



山の郵便配達
彭見明

老郵便配達は初めて息子と配達に出る。それは最後の仕事だった。



老人と海
ヘミングウェイ

老漁夫と巨大カジキマグロとの壮絶な闘いが、厳粛な自然を語る。



半分のふるさと
イ=サンクム

日本で生まれた朝鮮人少女は、二つの国の間で複雑な思いを抱く。



さんごくし
三国志
羅貫中

劉備・関羽・張飛の3人が、乱世の中国を駆けぬげる。



日本語のレトリック
瀬戸賢一

レトリックの効果を、さまざまな名作を引用して解説する。



句集 星の地図
神野紗希

十代の作者が俳句甲子園で俳句と出会い作った作品集。



ぼくの命は言葉とともにある
福島智

視力と聴力を失った筆者にとってのコミュニケーション。



俳句の図書室
堀本裕樹

これから俳句を始めようという人に、近現代の俳句を解説する。

漢字の練習5

① 次の——線部の言葉の読みを平仮名で書こう。

- (1) 幾何学幾何学と民俗学民俗学に興味がある。
- (2) 葉の上についた水滴水滴を眺める。

5

- (3) 帝国帝国の首都は厳肅厳肅な雰囲気雰囲気に包まれている。
- (4) 宮廷宮廷の天井天井の装飾装飾を見る。

- (5) 画塾画塾で水彩画水彩画を学ぶ。

- (6) 宇宙ステーション宇宙ステーションの滞在滞在を終えて帰還帰還する。

- (7) 安全確認安全確認を怠怠らない。

- (8) この洞穴洞穴から発見発見された唯一唯一のものは縄文土器縄文土器だ。

10

② 次の——線部の平仮名の言葉平仮名の言葉を漢字で書こう。

- (1) 会社会社のけいえいが軌道軌道に乗る。

- (2) 約束約束のきじつまで二日の猶予猶予がある。

- (3) 苦難苦難を克服克服し、平穩平穩にくらす。

- (4) 空欄空欄にいけんを記入記入する。

15

- (5) 食糧食糧をそうこそうこに保存保存する。

- (6) このぎょうむは拘束時間拘束時間が短い。

- (7) やさいや肉を乾燥乾燥させて保存保存する。

- (8) このぶつしつは加熱加熱すると凝固凝固する。

この教材で学ぶ漢字

塾	廷	肅	帝	滴	俗
ジユク	テイ	シユク	テイ	テキ	ソク
塾生	法廷	静肅	帝王	水滴 雨の滴	通俗
克	猶	軌	唯	怠	還
コク	ユウ	キ	ユイ	タイ	カン
克明	猶予	軌跡	唯一	怠情 おこたる怠り なまける怠け者	生還
凝	燥	拘	糧	欄	穩
ギョウ	ソウ	コウ	リョウ	ラン	オン
凝固 工夫を凝らす	乾燥	拘留	食糧	欄外	穩和 おだやかな人柄

新出音訓

幾何学幾何学(カ)
天井天井(シヨウ)

洞穴洞穴(ケツ)
縄文縄文(シヨウ)

学びのチャレンジ

ここには、さまざまな文章や資料を読みながら、考える力や目的に応じて判断する力、表現する力を高めていくための問題を設けました。

自分の力で挑戦してみましよう。

また、問題に取り組んでみて、これまでの自分の学びを振り返りながら、考えたことや課題に思ったことなどを、話し合ってみましよう。

問題1

同じテーマについて書かれた異なる文章を読む。

——もうりまもる 毛利衛 『宇宙からの贈りもの』

——しむらみお 志村史夫 『人間と科学・技術』

問題2

資料や図表を的確に読み、人の意見も取り入れて、自分の考えをまとめる。

——文化庁平成三十年度「国語に関する世論調査」など

問題1

山本さんのクラスでは、科学技術に関する文章を読み、科学技術に関して自分の考えを伝え合う活動を行っています。次の【資料1】と【資料2】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【資料1】※この文章は筆者が植物の精巧な作り物について考えをめぐらしながら、買い物を終えたところから始まります。

ガラスドアの表にも、本物の花を束ねたと見まちがうほどの美しいリースが飾ってあります。妻が「チョウがとまっている。」と言うので、「おそらく、偽物にせものだろう。」と思いつつ、そのきれいなチョウに触ろうとした時でした。羽がパタパタと動きまわりました。こんなに凝った動く模型があるのか、と疑いながらつかもうとすると、パタパタしながらリースの中の別の花へ逃げるではありませんか。そしてまた安心したようにとまっています。

本物だったのです。一時間後、気になって再び見にいきました。まだとまっています。三時間後、別な花にとまっています。四時間後、ようやくどこかに飛んでいってしまいました。

花から出る蜜も、卵を産みつける適当な場所もないはず。あまりに驚いたので、生物学者にきいてみました。チョウは紫外線も含めた花の色に、非常に敏感であるとのことでした。それでも、四時間も偽物の花と戯たわむれる理由があったのでしょうか。人間が作り出した偽花には、昆虫にとって必要な栄養分はありません。本能もごまかされたとしたら、待っているのは死のみです。

私たち人間は、自分で作った人工物に限界があることを知っているつもりでいます。それでも、大多数の人間は快感を求めて、意識や認識が簡単にごまかされる方向を選択するようです。ときには、そのまま死に至るまで、現実を本能で知ることもなく、最期さいごを迎えます。本能で生きているはずの昆虫でさえ、だまされる時代が始まったのです。

私たちは今、科学技術を単純にすばらしいことと無批判に受け入れるのではなく、人類が生き延びていくためのさまざまな知恵の一つとして位置づけ、考える必要があります。すなわち、人々によって磨き上げられてきた宗教や政治経済、芸術やスポーツなどと同じように、

人類がよりよく生きていくための文化として、科学技術と人間との関係を、新たな目で捉え直すことが求められています。

(毛利衛『宇宙からの贈りもの』の一部を書き改めたものである)

【資料2】

いかに最先端の―丁を駆使して得た情報、知識であれ、それらは有限であり、全宇宙の中ではほんの一部のものにすぎない。また、そのような情報や知識は、その“道具”さえ持てば誰にでも得られるものである。それらを本当に自分のものにするには、感性、“心の眼”が必要である。

倉田百三(くらたひゃくさん)(一八九一―一九四三)の『出家とその弟子』に登場する親鸞(しんらん)が「知識が増えても心の眼は明るくならぬのでな」といつている。また、サン・テグジュペリ(一九〇〇―四四)の『星の王子さま』に登場するキツネは「心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないってことさ。かんじんなことは、目に見えないんだよ。」といつている。

いま“センサー”と呼ばれるエレクトロザウルス(注1)が人間の五感の領域にまで進出し、自動車、カメラ、警報装置、家庭電気機器など、枚挙にいとまがない分野、製品の中で活躍している。それは、人間に代わって人間の五感の役割を果たすのであるが、単なる代替ではない。人間にとって知覚が物理的に不可能なものをも知覚できる。また、人間がとてもしり込みないような場所や人間が生理的に存在できないような場所でも人間に代わって“センス(知覚)”してくれるのである。数多いエレクトロザウルスの中でもとりわけ優秀な“センサー”ではあるが、私は、将来、人間の感性さえもエレクトロザウルスに支配されることになるのではないか、という不気味さを覚える。

(志村史夫『人間と科学・技術』による)

注1 エレクトロザウルス 筆者の造語。エレクトロニクスの「エレクトロ」と、恐竜の名前に使われる「ザウルス」を合成した言葉。電子機器の総称。

第一問

【資料1】と【資料2】における論理の展開について説明したものを、次のアからオまでのなかからそれぞれ一つずつ選んで記号で答えなさい。

ア 読み手が共感しやすいように、筆者の体験をもとに問題提起している。

イ 読み手が論理の展開を理解しやすいように、一般的な事例から問いとその解決策を明示している。

ウ 文章に説得力をもたせるために、複数の資料から筆者の主張に関連する言葉を引用している。

エ 独創性を強調するために、一般的な事例をあげ、対比的に自分の考えを述べている。

オ 文章の内容を捉えやすくするために、最初と最後の両方で主張を繰り返し述べている。

第二問

山本さんは【資料1】と【資料2】の内容を整理してメモにまとめています。【山本さんのメモ】を参考に、下段の筆者の主張の違いに基づいて、表現の仕方の違いを **A** に書きなさい。ただし、五十字以内で書くこと。

【山本さんのメモ】

現状の認識・評価

毛利氏（中）

本能で生きているはずの昆虫でさえ、（科学技術に）だまされる時代が始まった。

志村氏（終わり）

将来、人間の感性さえもエレクトロザウルスに支配されることになるのではないか、という不気味さを覚える。

◎表現の仕方の違い

二人とも科学技術についての認識を述べている。毛利氏は、現状の科学の進歩を「でさえ」と強調して述べ、志村氏は、現状から予想できることに対して「不気味」といった感覚を加えて、読み手に訴えている。

筆者の主張

毛利氏（終わり）

人類がよりよく生きていくための文化として、科学技術と人間との関係を、新たな目で捉え直すことが求められている。

志村氏（始め）

（情報や知識を）本当に自分のものにするには、感性、「心の眼」が必要である。

◎表現の仕方の違い

二人とも、科学技術とどのように関わっていくべきかについて書いている。毛利氏は、

A

第三問

あなたは、これからの科学技術がどのように発展していくと考えますか。また、どのように科学技術と関わっていきたいと思いますか。あなたの考えを、次の条件1から条件3に従って書きなさい。

条件1 【資料1】【資料2】のどちらかの内容を取り上げて、文や文章を引用して書くこと。引用する箇所は、かぎ（「」）でくくることが。

条件2 取り上げた内容に対して、あなたが感じたことや考えたことを具体的に書くこと。

条件3 「これからの科学技術は、」に続けて、八十字以上、百二十字以内で書くこと。

問題2

田中さんは、読書に関する文章を書いています。次の【文章の下書き】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【文章の下書き】

高校生活に向けての読書のすすめ

田中健一

A つまり、高校生の四割程度が本をほとんど読んでいない、あるいは読むことができていない状況だと推測できません。

また、別の調査による左の【グラフ】を見ても、中学生と高校生を比べた時、高校生になると読書量が大きく減少していることがわかります。私はこの数字を見て、自分も、来年から高校に進学することになるけれど、はたして今までのように読書が続けていくことができるのだろうかと不安になりました。

確かに、高校生になれば、日々の勉強の量が中学生の時よりも増えるでしょうし、結果、読書の時間の確保が難しくなるはずですが、私も、私は読書が続けていきたい。そのためにはどうすればよいのでしょうか。読書の時間や機会を確保するための方法をここで考えておきたいと思います。

そこで国語科の山下先生に効率的に読書をするための方法について尋ねてみました。山下先生は大変な読書家です。山下先生のお話をまとめると次のようになります。

B 皆さんも知ってのとおり、

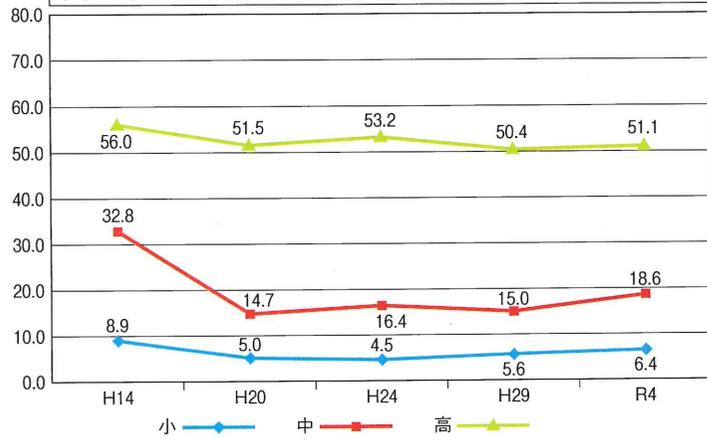
C

- 1 本を読む時間を確保するために、仕事をてきぱきとこなす。
- 2 未読の本が本棚に常にある状態を保ち、すぐに新しい本を読めるようにしておく。
- 3 選書に時間をかけすぎない。おもしろくない本に出会ったら、そのときは、無理に読破しようとせずに、別の本にすぐに移ってよい。
- 4 好きな作家やジャンルがあることはいいことだが、それにこだわりすぎない。さまざまなジャンルの本を読んでみる。
- 5 古典は現代語訳の本でいいので手もとに置いておく。無理に読破しようと意気こまずに、ふとした時に開けばよい。古典とも軽い気分でつき合ってみる。

①不読率*の推移 (%)

※1か月に1冊も本を読まなかった人の割合

小学生、中学生は中長期的に改善傾向、高校生は依然として高い状況にある。

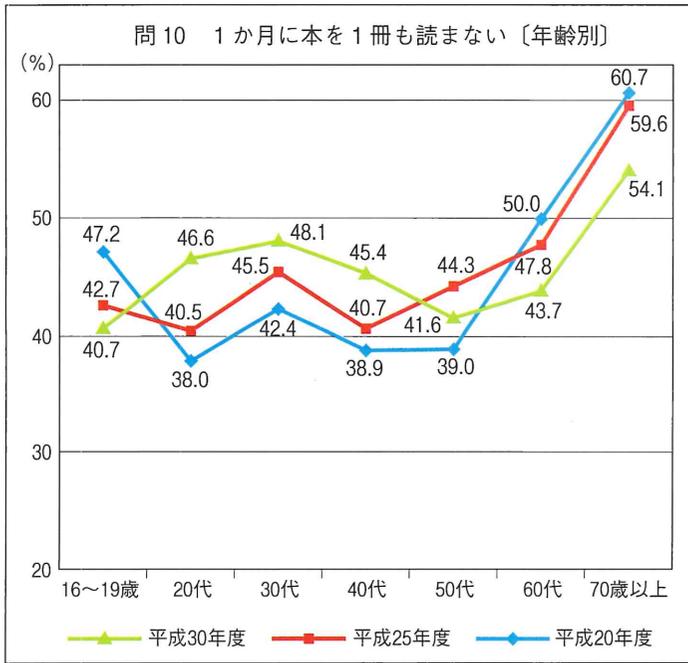


【グラフ】全国学校図書館協議会ほか「第67回 学校読書調査」(2022)より

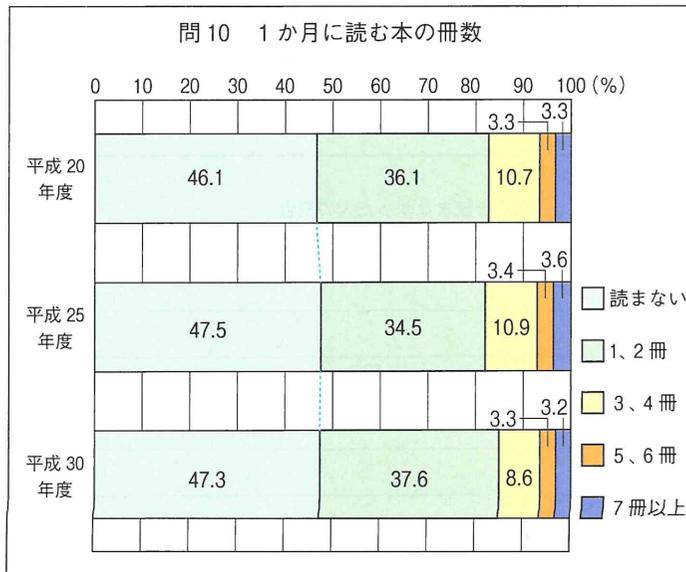
第一問

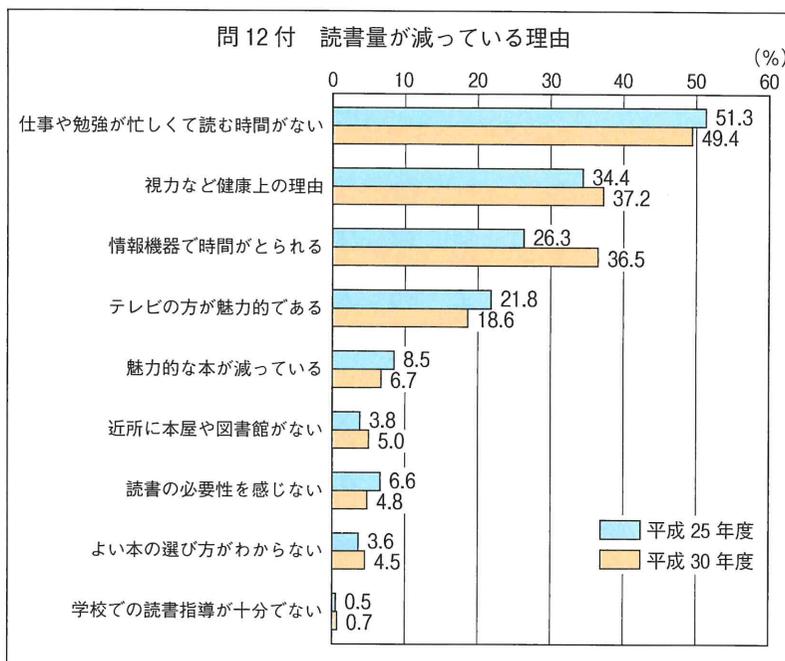
田中さんは、高校生の読書量が少ないという根拠を **A** に書こうとしています。田中さんの立場になって、根拠となる資料を【グラフA】から【グラフC】までの中から一つ選び、**A** に入る文を書きなさい。

【グラフA】



【グラフB】





【グラフA】 【グラフB】 【グラフC】 文化庁 平成30年度「国語に関する世論調査」より

第二問

田中さんは、【文章の下書き】を読み直して、**B**の部分を書き直しました。その意図を説明したものと
して最も適切なものを、次のアからエまでの中から一つ選びなさい。

ア 番号をつけて整理することで、伝えたいことを端的に説明しようとした。

イ 読み手にはたらしめかける表現を取り入れて、共感を得ようとした。

ウ 「」を使って先人の言葉を引用することで、説得力を増そうとした。

エ 説明した内容の出典を明らかにし、文章の信頼性を高めようとした。

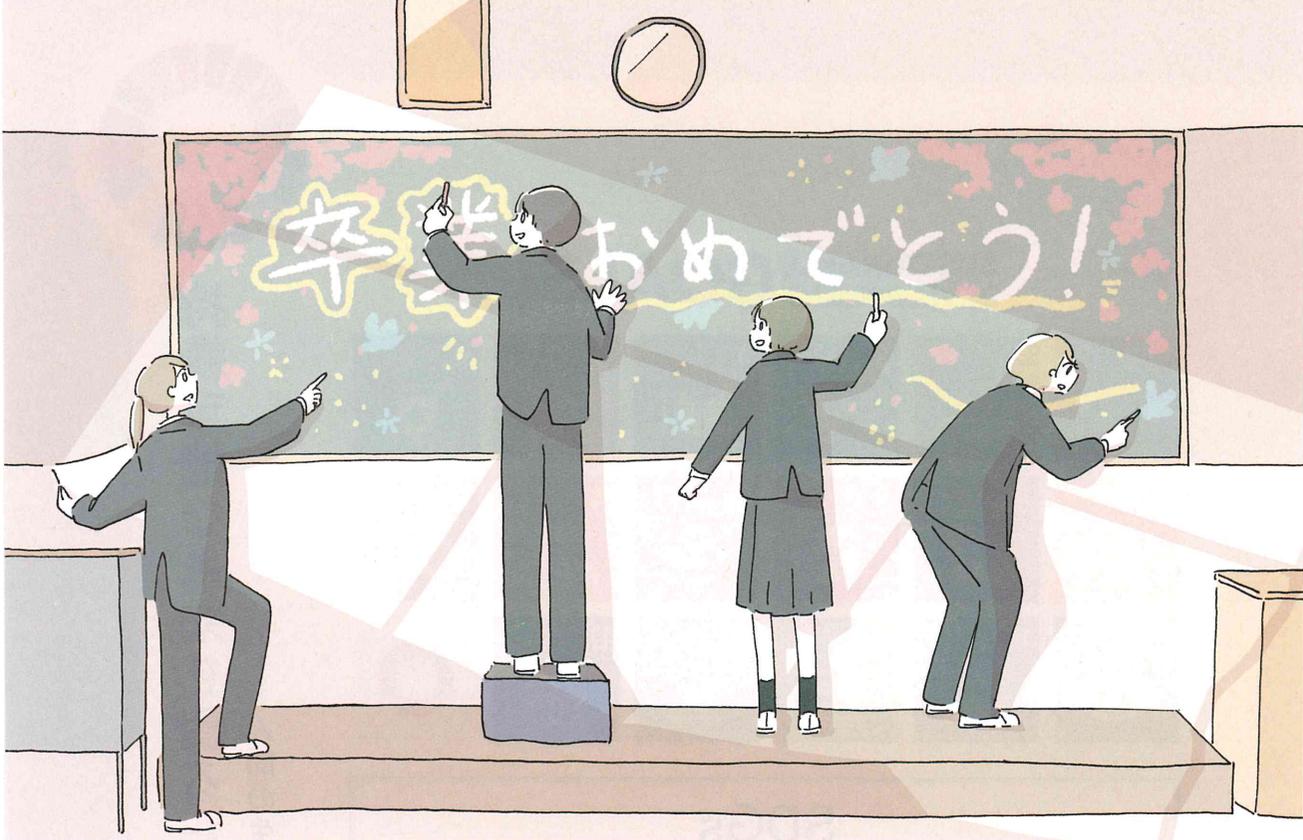
第二問

田中さんは、【文章の下書き】の **C** の部分に山下先生の話を取り上げながら、効率的な
読書について自分の体験をもとに文章をまとめようとしています。あなたならこの **C**
にどのようなことを書きますか。次の条件1から条件3に従って書きなさい。

条件1 読書を続ける立場から、山下先生の1から5の話の一部を引用して書くこと。

条件2 あなたの読書体験を取り上げて書くこと。

条件3 百五十文字以内で書くこと。



七 情報を共有する

総合(SDGs) 持続可能な未来を創るために

——人間の生命・存在を考える

生命とは何か 福岡 伸一

地球は死にかかっている 手塚 治虫

水の星 茨木のり子

「対話力」とは何か 多田 孝志

言葉と社会 2 自分の意見を述べるとき

  意見を共有する

意見を共有しながら話し合う

広がる本の世界 7

  情報をまとめる

中学校生活をまとめて作品集を作る

四季のたより 冬 歳の暮